

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992300079		
法人名	社会福祉法人 敬和会		
事業所名	グループホーム元気		
所在地	栃木県下都賀郡壬生町壬生甲2224-1		
自己評価作成日	令和 元 年 11 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和 元 年 3 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、理念にも掲げているように、笑顔の絶えない明るい環境の中で、入居者様1人1人が、自分らしく生活できるよう支援している。
 苑庭では四季折々の草花も、入居者様と一緒に植え、畑での野菜作りも行い、入居者様と一緒に収穫をしている。
 収穫した野菜は、おやつや食事の一品を作り、美味しく食べ楽しんでいる。
 また、自治会主催のお花見や夏祭りに参加させていただき、認知症カフェにも月に一度参加し、地域の方々との交流も深めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 元 年 11 月 28 日		

事業所周辺には田園が広がり、敷地内には四季折々の草花や菜園があり、季節感を感じながら落ち着いた暮らせる環境が整っている。利用者の支援に当たっては「接遇」を基調とし、事業所独自の理念の下に利用者との心のつながりを大切に、共に楽しく、利用者一人ひとりがその人らしい生活が送れるよう支援している。同法人が運営するデイサービスセンターや運営母体である医療法人とも連携しており、毎週嘱託医の回診があるなど、介護や医療面における利用者や家族の安全安心につなげている。災害対策については法定の避難訓練のほかに自主訓練や水難訓練も行いなど、有事への対応に努めている。自治会主催の夏祭りや敬老会に参加したり、傾聴ボランティア等の訪問や認知症カフェなどに施設を開放するなど地域交流に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念の唱和を行い、入居者様1人1人がその人らしく笑顔で過ごせるよう、職員全員が自覚を持って支援している。	「利用者との心のつながりを大切に、その人らしく笑顔で楽しく暮らせるよう支援する」という地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念により、全職員が共有し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していることで、自治会主催の行事に参加させていただき、地域との交流を作っている。	自治会主催の夏祭りや敬老会等、さらに町や地域の諸行事に参加し、ふれあいの機会を作っている。傾聴ボランティアや音楽関係のグループなどの訪問や利用者の知人が立ち寄ることもある。「なごみカフェ」の会場になるなど地域交流に活かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室を開放し、地域の方に認知症への理解に活かしている。 主に、介護教室や認知症カフェなどに使用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ご家族へも会議の目的等を説明し、理解して頂いたうえで参加を呼び掛けている。 会議ではより良い施設向上の為、意見交換をしている。	自治会長や民生委員等の通常のメンバーにより開催し、避難訓練や施設の行事に合わせるなどの工夫もしている。意見交換での提案や情報はサービス向上に活かすよう努めている。家族の参加や意見等が出やすくなるよう取り組んでいる。	家族の参加が得られるよう曜日等を考慮したり、消防や駐在所及び保健福祉関係や地域の学識経験者等様々な分野からの参加を試み、意見や情報をサービス向上に活かす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の職員に運営推進会議に参加して頂き、ホームの状況や入居者様の状況を把握して頂いている。	運営推進会議に町職員及び地域包括支援センター職員が出席し意見や情報を受けている。また、運営上の相談や事務手続き等で指導を受けるなど日頃から連携に努めている。最近では災害対策について説明があり、より良いサービスにつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束について理解し、職員同士注意し合い、身体拘束のないケアに努めている。	定期的な勉強会や日常のケアにおける職員間での話し合いにより理解を深めている。職員は身体拘束について良く理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に「スピーチロック」等言葉による拘束の無いよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、職員会議で話し合いをし虐待のないよう努めている。 日頃から、言葉遣いや態度に注意してケアを行っている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。 実際に活用している入居者様もいるので身近に感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、契約時に、契約内容等を細かく説明し、疑問点や不安がある際にはその都度説明し、理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口と町高齢福祉課・栃木県健康保険団体連合会の連絡先を明記している。家族面会時には問題がなにか確認をしている。面会簿に意見欄を設け、意見・要望を書いて頂くよう伝えている。	日頃の生活の中で利用者からの要望を聞き取るよう努めている。家族の意見等は面会時や行事での訪問時に利用者の状況を説明した上で確認している。出された意見や要望はその後の支援や介護計画作成等に反映させている。	会報と併せ書面で利用者の状況を良く伝え、家族からの意見や要望をさらに出しやすくするような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種委員会や職員会議等により、職員の意見や提案を聞き、反映させている。	管理者は職員会議や各種委員会で職員の意見や提案を聞いている。また、日常のケアの中でも職員が意見等を言い易い関係を築いており、ケアに関することや運営に関することについて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者はスタッフ会議に出席し職員と話し合う機会を持ち、勤務状況を把握している。 また、年に2回の人事考課表を全職員が記入し自己評価を行い、各自が向上心を持って働けるよう職場環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加できるように検討し、参加者のみでなく、他職員にも共有できるように、研修内容報告書の内容は回覧を行ったり、職員会議で発表してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。 研修に参加した職員は、研修先で同業者との交流を持つ機会がある。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面接を行っている。 ご本人から、話を聞く機会を設けている。 困っていることや不安なことに耳を傾け、安心してホームで生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にホームの見学をして頂き、不安点等話を聞き、具体例などを挙げ説明し、不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族だけでなく、居宅のケアマネージャーからも自宅の様子や利用していたサービスの詳細を聞き、他のサービスについての説明も行い、支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の介護サービスを考え、今までの経験が活かせるような働きかけを行っている。 入居者様がより良い生活を送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には定期的に生活状況や健康状態を伝え情報の共有を図っている。 遠方のご家族とは連絡を取り合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との関係が途切れないよう、友人や親戚等が面会に来やすいようなホームの雰囲気作りに努めている。 外出する際にもご本人の行きたいところに行けるよう心掛けている。	利用者が馴染みだったお店や公園、観光地などに行きたい時に行けるよう、外出の支援をしている。 家族や友人等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、面会時には部屋などでゆっくりと話せるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流のある入居者様同士の関係を大切にし、リビングや行事等の席順の工夫や、居室の行き来、両棟の行き来が気軽に出来るよう支援している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅のケアマネージャーや関係機関に情報提供を行い、相談援助等があれば、対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望や、意向の把握が出来るよう、常に入居者様との対話をし、職員同士でも意見交換をしている。 困難な場合は、ご家族とも話をし本人本位の暮らし方が出来る様に努めている。	職員は日常の関わりの中で利用者の話を聞き、望んでいることを把握するよう努めている。食べ物や外出など身近なことになりがちだが職員間で共有し対応している。困難な場合でも家族からの情報や気付きなどから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活状況やご家族との関係を、担当のケアマネージャーに聞き取りをしたり、本人・家族にも話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方を記録し、申し送りを行い、職員が入居者様の状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を確認し、ケアマネージャー、担当職員が話し合いを行い、介護計画を作成している。 また3か月毎にサービス担当者会議を開き、見直しを行っている。	本人や家族との話し合いにより希望等を確認し、職員の意見や主治医等の指示に基づき現状に即した介護計画を作成している。利用者の状況に変化があった場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入することで入居者様の様子を把握して実践や介護計画の見直しに活かしている。 また、早急に知ってもらいたい情報は連絡帳を活用し、職員で周知できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、専門の医療や他のサービスを利用したい場合は、利用できるものは紹介し実施できるよう支援している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催のお花見や夏祭り、敬老会へ参加することで地域の方々と交流を深めている。認知症カフェに参加したり、ボランティアの方と接することで暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師である理事長が週一回回診を行っている。かかりつけの医師がいる入居者様についてはご家族と連携をとりながら、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	希望するかかりつけ医での受診を基本としており、現在4名の利用者がかかりつけ医での受診となっている。利用者のほとんどが週1回嘱託医の回診となっており、適切な医療が受けられるよう医師との連携支援をしている。	投薬や受診状況等の医療情報は家族や主治医と共有し、書類に記録しておく取り組みに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していない為、かかりつけの医師に相談をしている。また、同法人の看護師に相談をしたり協力をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、治療経過などご家族や病院関係者に確認し、また直接病院に様子を見に行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っている。実際に重度化した場合には、ご家族、主治医、ケアマネージャーが話し合いをし、看取りを希望するかなどの方針を共有するようにしている。	事業所の対応については利用開始時に本人・家族に説明し、話し合いにより希望等を確認した上で方針を共有している。重度化した場合は家族の意向を聞き対応し、看取りについては医療関係者や職員による体制ができており、希望に沿えるよう支援している。過去に看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様が急変した時のマニュアルは常に職員の目が届くところに張り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的実施している。消防や自治会の協力で、夜間想定避難訓練や水害時の訓練も実施している。緊急連絡バックを用意し慌てず通報出来る様にしている。	年2回の避難訓練のほかに独自に夜間想定や水難訓練も実施している。災害対策マニュアルや連絡網を整備し、避難方法や避難場所も決めており有事への対応に努めている。地域の人達の協力も得られており、食料等の備蓄も整備されている。	

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係であっても、丁寧な言葉使いで対応していけるように職員間で注意を促し、互いに気を付けるよう日頃から話し合っている。	利用者には優しく尊敬を持って接し、会話においても同じ目線で丁寧な言葉使いを心がけている。トイレ誘導も小声で行うなど誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。広報誌への写真掲載は家族の了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話や態度から、本人のニーズを探り、思いや希望を自己決定できるようなコミュニケーションを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やボランティア、レクリエーション等、参加は強制せず本人の意思に任せている。 また、その日の体調も考慮し、本人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から使用している化粧品等をご本人の希望に沿って継続して使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みメニューや手作りおやつ、行事食等入居者様の意見を取り入れながら一緒に考え準備している。 また、個々の能力に応じて職員と一緒に片付けや食器拭きのお手伝いをして頂いている。	献立並びに食材は業者からの調達だが、食事は職員が手作りしている。毎月一回の「お好みメニュー」や手作りおやつ、季節食や行事食、外食、敷地内で獲れた野菜類やバーベキューなど、食事を楽しむことの支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理を工夫したり、その人に合った食事を提供している。食事摂取表を作成し一日の摂取量を把握できるようにしている。 水分量が不足している際には、声かけをしたり好きな飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、義歯の手入れを行えるように職員は利用者の能力に応じてケアを実施している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄時間を記録することで、排泄リズムを把握し、時間で声かけを行っている。また、言葉に出来ない入居者様のサインを見逃さないよう注意深く見守りを行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、声かけに配慮し時間を決めて誘導している。一部の利用者が夜間にポータブルトイレを使用しているが、ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しており、引き続きトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操、散歩等で適度な運動を実施している。また、排泄チェック表を確認し、排便コントロールは個々の状況に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の健康状態を確認し、入浴の希望を聞きご本人のタイミングの良い時にゆっくりと入浴できるように支援している。季節ごとの菖蒲湯やゆず湯も実施し楽しんで頂いている。	入浴は週2~3回としているが、利用者の希望や体調等に配慮しタイミングに合わせて支援している。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯にしたり、職員との会話や歌などにより入浴を楽しめるよう支援している。拒否傾向の利用者には声かけに工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はいつでも休める様にベッドメイクし清潔を心掛けている。ご希望の方には自宅で使っていた寝具を利用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のケースファイルに服薬の処方箋を入れている。確実に服薬ができるよう見守りを行っている。内服薬に変更があった場合は、連絡帳に変更内容を記入し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に合った楽しみを見つけ、趣味の時間等を尊重している。また、外出等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食へ行く機会を設けている。ご家族との外食や外出の支援も行っている。また、お花見や紅葉など季節を楽しめる外出支援も行っている。	事業所内敷地や近隣を散歩したり、近くのコンビニエンスストアやスーパーマーケットに買い物に行くこともある。回転寿司や蕎麦屋などへの外食、季節によりお花見や夏祭り等の地域行事、近隣の公園等に出かけるなど、利用者の希望に沿えるよう外出支援に努めている。	

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金はお預かりしているが、使用したい時に使用できることを説明し理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった場合は、随時電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で過ごすリビングは吹き抜けの広い空間になっており、四季折々の展示物や入居者様がレクリエーションで作成したのもも展示している。	室内は職員による清掃が行き届き明るい雰囲気、温湿度とも職員が適度調整している。リビングには季節の展示物や利用者の作品等が掲示しており、壁には利用者の写真や作品を飾り、季節感や生活感を感じさせている。家具類の配置も工夫し、ソファなどできつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル以外にもソファやテーブルがあり、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や寝具等を使用していたり、家族写真やご自身の作品を飾るなど、各々が過ごしやすい空間を作っている。	家具類や日用品等の配置については本人や家族の意向を確認し、安全面に配慮すると共に、できるだけ使い慣れた物を使用し、写真や作品等好みの物の掲示についても楽しめるよう工夫するなどの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活を送れるような家具の配置や、トイレの場所や居室がわかるよう名前を書いている。		